

不登校の未然防止のために（参考資料一令和7年4月）

学校安全・体育課

「不登校は、『どの子どもにも起こりうる』ものであり、『心の問題』としてのみとらえるのではなく、広く『進路の問題』、すなわち、『社会的自立に向けて自らの進路を主体的に形成していくための生き方の問題である』という点において、児童生徒にとり大きな課題である。」という認識を、全教職員でもつことが大切です。

～ 欠席した児童生徒には、積極的に家庭訪問を ～

「心をつなぐ1・2・3運動」を実行しよう

各市町教委においては、地域の実態を踏まえて「学校における生徒指導の水準」を作成し、各学校への確かな浸透に向けて取組が進められていますが、その水準をさらに発展した取組に高めていきましょう。

不登校の未然防止のための早期対応システム

不登校の未然防止のためには、特に、登校をしぶり始めた初期の対応が大切です。担任をはじめ全ての教職員が児童生徒の状況に敏感になり、いち早く小さなサインに気づき、早期対応をすることで不登校の未然防止を図っていくことが重要です。

また、これまでの取組の中で、3日連続欠席者への家庭訪問等、一定の定着が図られてきていますが、断続欠席者についても、不登校の予防・早期対応を進めるなど、さらなる未然防止の強化に努めていく必要があります。

「不登校の未然防止のための早期対応システム」の概要

- 1 不登校の予兆（「気になる児童生徒」のチェック）
- 2 欠席者等の状況把握・情報共有

「心をつなぐ1・2・3運動」

- 3 欠席1日目の電話連絡
- 4 連続欠席2日目の家庭訪問、断続欠席2～6日目の電話連絡と家庭訪問
- 5 連続欠席3日目、断続欠席7日目のチーム対応、市町教委への連携（SSWの活用）

1 不登校の予兆（「気になる児童生徒」のチェック）

■ 日常の行動観察のポイント（全教職員での取組）

登校	あいさつ時の反応、表情、顔色、遅刻
朝の会（SHR）	出席確認、健康観察（表情、顔色、体調）
授業	入室遅れ、保健室利用、授業態度、表情、顔色、早退
移動	一人で移動していないか
休憩時間	孤立していないか
昼休み	昼食中や休み時間の様子
放課後（部活動・下校）	あいさつ時の反応、表情、顔色、一人での下校、部活の様子

■ 不登校の予兆チェックリスト（担任が中心となり、「気になる児童生徒」の実態把握）

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 表情がさえない(笑顔が消える) | <input type="checkbox"/> 顔色が悪い |
| <input type="checkbox"/> 遅刻・早退が増えた | <input type="checkbox"/> 保健室の利用が増えた |
| <input type="checkbox"/> 一人でいることが多くなった（休み時間や教室移動時、孤立している） | |
| <input type="checkbox"/> 授業中、ぼんやりしている | <input type="checkbox"/> 授業中、つらそうにしている |
| <input type="checkbox"/> 体調を崩しやすい | <input type="checkbox"/> 教室に入りたがらない |
| <input type="checkbox"/> 家庭環境に変化があった | <input type="checkbox"/> 兄弟姉妹の欠席が増えている |
| <input type="checkbox"/> （校外を含め）友人関係でトラブルがあった | <input type="checkbox"/> 生活態度が乱れ始めた |

該当する項目があった場合

まず、継続観察でよいか、具体的対応が必要かの判断から

この時点で「学年会」や「不登校部会」等で指導方針(対応策)を決定する。決定した指導方針(対応策)を全教職員で情報共有・共通認識を図る。必要に応じ、スクールカウンセラー（以下、「SC」という。）やスクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」という。）とも連携を図る。

「過去3年間の欠席状況」も重要な資料となります。詳しくは「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関するQ&A」（国立教育政策研究所HP）P10を参照。

2 欠席者等の状況把握・情報共有

【実践例】

- ・ 学年別ホワイトボードに、欠席1日目は黒、連続2日目は青、連続3日目は赤で記入する、電話連絡をしたら○、家庭訪問をしたら◎を付けるなど、一目で状況が把握できる工夫をする。
- ・ 教育相談担当または出席統計係等は、全校児童生徒の欠席、遅刻、早退、欠課(保健室利用)を把握し、全校児童生徒の「出欠状況等データ表」を作成する。

出欠状況等データ表（例）

学級	出席番号	氏名	欠席	遅刻	早退	欠課	その他	第1週					第2週					第3週					第4週		
								4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5
								9	10	11	12	13	16	17	18	19	20	23	24	25	26	27	1	2	7
			A	B	C	D	E	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	火	水	月					
2組	1	○○○○																							
	2	□□□□	6					A					A					A	A				A		A
	3	△△△△																							
	4	▽▽▽▽	1	2	1										C	A	B	B							
	5	○○○○	4	5		2		A					B		D	D	A	B			A	A	B	B	B
	6	□□□□																							

- ・ 「出欠状況等データ表」は、1週間ごとに学年会や不登校部会等で情報共有する（部会が開催されないときは部会員（管理職を含む）で供覧）などの組織的対応に活用する。

目的は、欠席理由の確認や状況把握、及び、ねぎらいの言葉や安心して登校できる声かけなどの丁寧な対応による保護者との信頼関係づくりである。病欠の場合は、病状の確認だけでなく、医療機関の診察も確認する。

■ 電話連絡での「聞く」「伝える」ポイント

【保護者が電話に出た場合】

◎ 聞くポイント

- ・ 体調
(例)「〇〇さんの具合はいかがですか？」
「病院での診察はいかがでしたか？」
「食欲はどうですか？」
- ・ 家庭での過ごし方：
一日何をして過ごしていたか。
- ・ 気になること：
生活のリズムや本人の様子を見て、体調面・生活面以外にも気になることはないか。

◎ 伝えるポイント

- ・ 明日の予定の連絡：時間割、持ち物
- ・ 学校からの配付物、伝達事項等の説明
- ・ ねぎらいの言葉や安心して登校できる声かけ
← 保護者は待っています。
(例)「お疲れ様です。」
「今日はゆっくり休んで、明日は待っています。(体調にもよる)」
「今日は、お忙しいところありがとうございました。」
「気になることがあれば、いつでも御連絡ください。」

【本人が電話に出た場合】

◎ 聞くポイント

- ・ 家庭での過ごし方：
一日何をして過ごしていたか。
(例)「今日は一日家にいたの？」
- ・ 体調：不調はないか。
(例)「具合はどう？」「病院は行った？」
「食事はとれている？」
- ・ 生活リズム：不眠や昼夜逆転はないか。
(例)「何時に起きた？」
「昨日はよく眠れた？」
- ・ 気になること：体調面・生活面以外に気になることはないか。
(例)「何か気になることはない？」「心配なことや不安なことはない？」
「何かつらいと思うことはない？」「話したいことがあったら、いつでも先生に話してね。」

◎ 伝えるポイント

- ・ 明日の予定の連絡：時間割や持ち物
- ・ 学校からの配付物や伝達事項等について説明
- ・ 気持ちに寄り添う声かけ
(例)「熱が出て、つらかったね。」
・ 安心して登校できるような声かけ
(例)「今日はゆっくり休んでね。」
「先生も学級のみみんなも待っているからね。」

【留守番電話での対応】

1回目の電話連絡では、「後ほどお電話します」と残しましょう。

◎ 留守番電話に残す内容

- ・ 体調 (例)「具合はどうですか？」
- ・ 明日の予定の連絡 (例)「明日の時間割は～で、持ち物は～です。」
- ・ 安心して登校できるような声かけ (例)「待っています。」
- ・ 気になること (例)「気になることがあれば、いつでも御連絡ください。」

4 連続欠席2日目の家庭訪問、断続欠席2～6日目の電話連絡と家庭訪問

欠席理由の確認や状況把握もさることながら、「子どもの顔を見に行く」「できれば子どもと話す」「保護者と話す」ことによる家庭との温かい信頼関係づくりも目的のひとつである。

「心をつなぐ1・2・3運動」の「2」

■ 家庭訪問での「見る」「聞く」「伝える」ポイント

【保護者が対応する場合】

◎ 見るポイント

- ・ 家庭の環境：玄関の整頓状況等
- ・ 保護者の身なり、顔色や表情：服、化粧、疲れや拒否はないか 等
← 顔色や表情は、保護者の心理状態や体調を知るバロメーターになります。

◎ 聞くポイント

- ・ 体調： 不調はないか
(例)「〇〇さんの具合はいかがですか？」
- ・ 家庭での過ごし方：
一日何をして過ごしていたか。
- ・ 気になること：
生活のリズムや本人の様子を見ていて、体調面・生活面以外にも気になることはないか。
体調不良のその背景に友人関係や学業面の不安等は感じられないか。
保護者が心配に思うことはないか。

◎ 伝えるポイント

- ・ 明日の予定の連絡：時間割、持ち物
- ・ 学校からの配付物、伝達事項等の説明
- ・ ねぎらいの言葉や安心して登校できる声かけ
← 保護者は待っています。
(例)「お疲れ様です。」
「お忙しいところありがとうございました。」
「気になることがあれば、いつでもご連絡ください。」

【本人が対応する場合】

◎ 見るポイント

- ・ 身なり：衣服や身体の汚れはないか、寝起きか 等
← 家庭の養育環境を知る手掛かりになります。
- ・ 顔色や表情：疲れや拒否、すくみ反応はないか 等
← 顔色や表情は、子どもの心理状態、体調を知るバロメーターになります。

◎ 聞くポイント

- ・ 家庭での過ごし方：
一日何をして過ごしていたか。
(例)「今日は一日家にいたの？」
- ・ 体調：不調はないか。
(例)「具合はどう？」「病院は行った？」
「食事はとれている？」
- ・ 生活リズム：不眠や昼夜逆転はないか。
(例)「何時に起きた？」「昨日はよく眠れた？」
- ・ 気になること：体調面・生活面以外に気になることはないか。
← 体調不良など表面的な症状の背景に、友達関係や学業面の不安は感じられないかを探る。
(例)「何か気になることはない？」「心配なことや不安なことはない？」
「何かつらいと思うことはない？」「話したいことがあったら、いつでも先生に話してね。」

◎ 伝えるポイント

- ・ 明日の予定の連絡：時間割、持ち物
- ・ 学校からの配付物、伝達事項等について説明
- ・ 気持ちに寄り添う声かけ
(例)「熱が出て、つらかったね。」
「先生も学級のみみんなも待っているからね。」

【会えない場合（手紙に残す内容）】

- ・ 体調
(例)「具合はどうですか？」
- ・ 安心して登校できるような声かけ
(例)「待っています。」
- ・ 明日の連絡
(例)「明日の時間割は～で、持ち物は～です」
- ・ 気になること
(例)「気になることがあれば、いつでもご連絡ください。」

■ 家庭訪問の様子の記録

- ・ 訪問日時
- ・ 子どもの様子（体調、家庭での状況）
- ・ 訪問者及び対応者
- ・ 対応者（保護者）の様子
- ・ 学校から伝えた内容及び持参物
- ・ 気になった点

聞き取った症状等を記録する。
特に、明らかな病欠以外では詳細に記録する。

5 連続欠席3日目、断続欠席7日目のチーム対応、市町教委への連絡（SSWの活用）

「心をつなぐ1・2・3運動」の「3」

■ 個別の不登校対応チームの設置

連続欠席3日目や断続欠席7日目に、担任・学年主任・教育相談担当・生徒指導主任・養護教諭・管理職等による「校内ケース会議」等を開催し、本人の状況や今後の取組について、以下の取組を行う。

- ・ **欠席理由の判断**
児童生徒の欠席が「病気」「経済的理由」「不登校（いじめを含む）」「その他」のどれにあたるかの判断を行う。
- ・ **児童生徒理解・情報共有**
「本人と保護者の登校意識」「家庭の様子」「欠席時の家庭での様子」「本人の特性、興味関心」「学校での様子」「気になること」等について情報を共有する。
- ・ **今後の方針の決定**
対応体制（チーム）づくり … 教育委員会へ連絡するとともに、スモールステップ、校内連携、関係教職員の役割分担、SC（本人要因に係るもの）やSSW（家庭要因に係るもの）、少年安全サポーター（非行に係るもの）等専門家との連携などの対応体制を構築する。必要に応じ、関係機関等とも連携した「連携ケース会議」の開催について検討する。
※ 「いじめ」が疑われる場合 → 教育委員会と連携し、学校「いじめ対策委員会」による全校体制での組織的対応（事実関係調査、保護者連携、指導、心のケア等）を行う。
- ・ **さらなる家庭との信頼関係づくり**
複数の教職員による家庭訪問等を継続的に実施し、本人や保護者の話をじっくり聞き、気持ちに寄り添った対応を行う。
- ・ **学級の受け入れ体制づくり**
児童生徒への配慮（教室・机周りの整頓、提出物や準備物等の連絡、学力保障の配慮、友人の声かけ、登校時や下校時の教職員の声かけ等）を十分に行う。
- ・ **記録の作成**
「個人記録票」（「不登校に係るQ&A集」資料3）を活用した個人記録の作成
※ 「ケース会議」は、形式が大事なのではありません。
柔軟にできるところから取り組み、継続しましょう。



平素からの不登校の未然防止に向けた取り組み

【取り組みのポイント】

- 児童生徒一人ひとりにとって、わかる・魅力ある授業づくりの実践
 - ・ 「わかる喜び できる楽しさ 学び続けるやまぐちっ子 ～高めよう授業力 育てよう学習力～」
 - ・ 個別指導の充実(児童生徒一人ひとりの理解を深める授業)
 - ・ 一斉授業で困難を生じている児童生徒へ組織としての個別対応
- 存在感・所属感を高める学級づくり～自己有用感～
 - ・ A F P Yを活用し共同の活動を通じた達成感や人間関係づくり
 - ・ 役割を通じた自己有用感と感謝の体験
 - ・ 「生活アンケートF i t (小・中・高)」「Q-U」等による学級集団の状況把握
- 児童生徒の自主的活動・体験的活動の計画的実践～「絆づくり」～
 - ・ 幼児・高齢者等様々な人とのふれあいやボランティア活動等の体験活動の工夫
- 学級の支持的ムードづくり～「居場所づくり」～
 - ・ 自他を大切にし、互いに認め合う学級づくり
 - ・ 欠席や早退の児童生徒へ、翌日の時間割や持ち物のメモ、「授業ノート」等を届ける等の児童生徒相互のつながり意識の醸成
- 副担任制や教科担任制の導入による気づきの共有と抱え込みの回避(小学校)
- 気になる児童生徒の定期的な情報交換
 - ・ 日々の連続欠席者・断続欠席者に係る情報の共有
- 相談窓口の周知等による、児童生徒・保護者が相談しやすい雰囲気づくり
- 保護者の養育等、家庭環境に課題を抱える児童生徒へのSSWやSCの活用
- 「継続性のある生徒指導推進のための小中連携の推進について(H22.3.1付平21教安体第3320号)」「子どもたちの規範意識を育むために(H24.12月配付)」等を参考にした具体的な連携

各市町教委における目標設定とPDCA

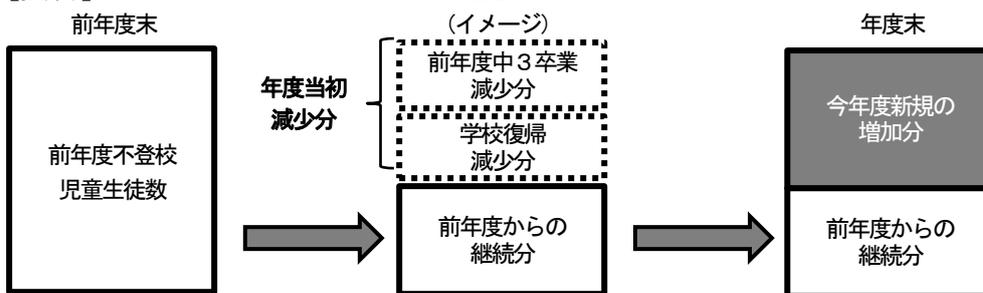
■ 目標設定とPDCA

県政運営の新たな指針である「山口県教育振興基本計画」における「推進指標」の一つに、『小・中・高等学校の1,000人当たりの不登校児童生徒』があります。現状値：小中26.6人 高9.5人(令和3年度)、目標値：小中19.0人 高6.0人(令和9年度)。

不登校出現率(1,000人当たり)の推移

年度	小学校		中学校		小中計		高等学校	
	山口県	全国	山口県	全国	山口県	全国	山口県	全国
H30	6.1人	7.0人	32.2人	38.1人	14.6人	17.0人	6.1人	18.1人
R01	7.4人	8.4人	39.6人	41.0人	18.0人	18.9人	6.6人	17.6人
R02	9.3人	10.0人	44.1人	40.9人	20.7人	20.5人	5.4人	13.9人
R03	12.5人	13.0人	54.5人	50.0人	26.6人	25.7人	9.5人	16.9人
R04	15.2人	17.0人	61.0人	59.8人	31.1人	31.7人	11.4人	20.4人
R05	20.7人	21.4人	68.0人	67.1人	37.4人	37.2人	13.0人	23.5人

【資料】

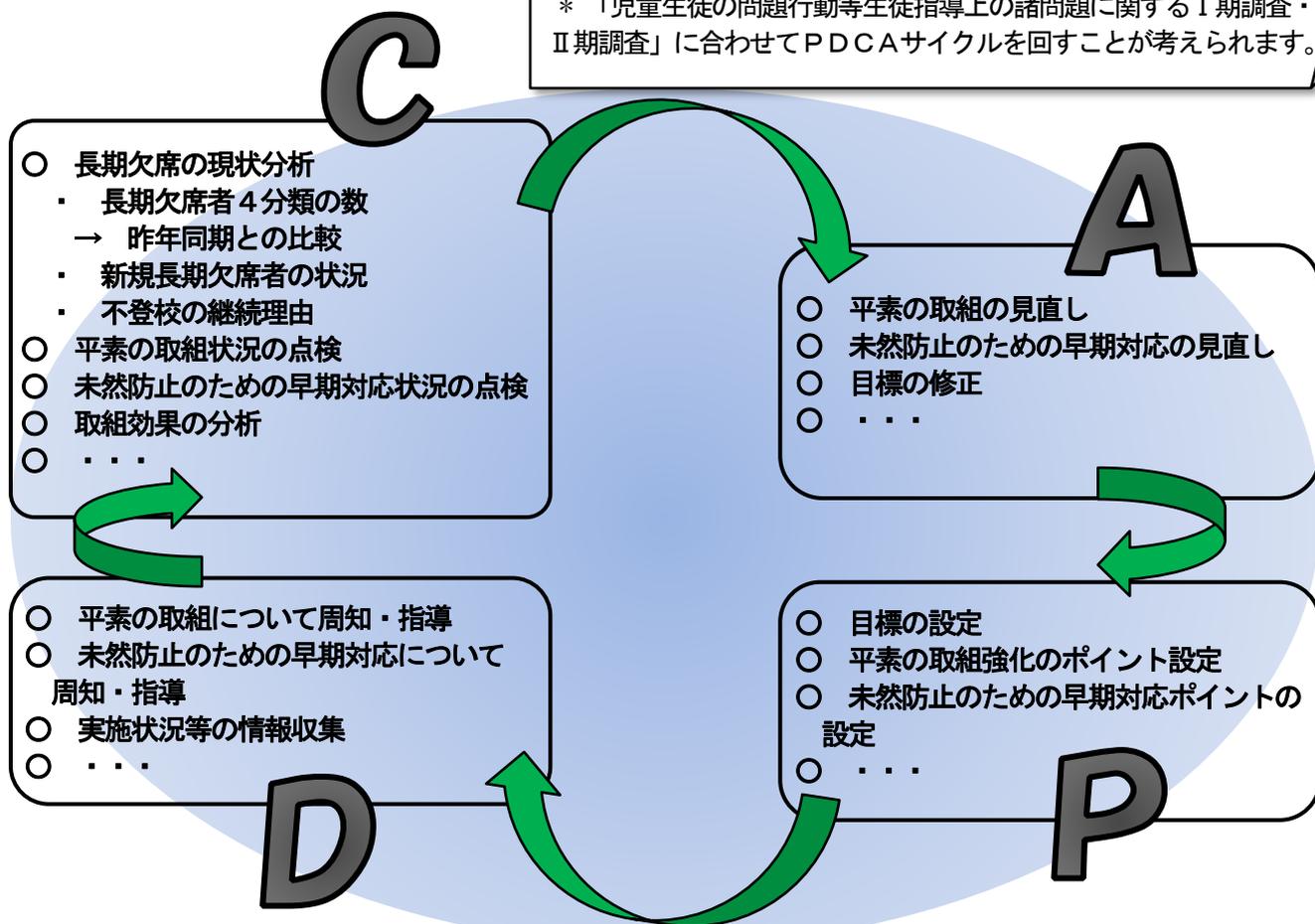


※「不登校・長期欠席を減らそうとしている教育委員会に役立つ施策に関するQ&A」
(国立教育政策研究所HP)から

事後の対応・ケアはもちろんですが、資料から「不登校の未然防止のための早期対応システム(心をつなぐ1・2・3運動)」の確実な実践や「魅力ある学校づくり(中学校区で連携したいじめ・不登校の未然防止)」等の「新たな不登校を生まない取組」が大変重要であることが分かります。

また、各市町の現状値等を参考に、各市町教委において「目標値」を設定し、目標達成の方法を考え、具体的な計画(P)に落とし込み、各学校の実践(D)に結びつけ、成果を検証(C)しながら当初の計画を修正(A)し、最終的に目標を達成する「PDCAサイクル」を実行することが重要になります。

* 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関するI期調査・II期調査」に合わせてPDCAサイクルを回すことが考えられます。



* 次の資料も参考にしてください。

- ・ 家庭訪問リーフレット (山口県教育庁学校安全・体育課HP)
- ・ 不登校対策にかかるQ&A集 (山口県教育庁学校安全・体育課HP)
- ・ スクールソーシャルワーカー実践事例集 (山口県教育庁学校安全・体育課HP)
- ・ スクールソーシャルワーカー活用マニュアル (やまぐち総合教育支援センターHP)
- ・ 効果的な不登校対策にかかる「実践事例集」(やまぐち総合教育支援サイト:先生のページ)
- ・ 心の教育推進の手引き (山口県教育委員会 平成24年1月)
- ・ 子どもたちの規範意識を育むために (山口県教育委員会 平成24年12月)
- ・ 心の教育実践事例集 (山口県教育委員会 平成27年3月)